

京都市内の大学における点字図書について

京都大学点訳サークル 田口 麻人

2011 年京都大学 11 月祭個人研究

1 まえがき・調査動機

京都大学のある京都市には多くの大学が存在し、平成 18 年度の人口に占める学生の割合は、人口百万人を超える大都市の中では日本最多となっている [1]。また大学の図書館には膨大な数の図書 (例えば京都大学附属図書館には、平成 15 年度に約 85 万 6 千冊の蔵書が存在する [2]) が蔵書として存在し、その中には (京都大学も含めて) 点字図書を所蔵している図書館も存在する。しかし大学図書館にどんな点字蔵書がどれだけ存在するのかといった情報は、総数等についてはいくつか存在するものの、蔵書分布 (どんな図書を所蔵しているか) といったことについては殆ど見つけだすことができない。また『総数』といっても、村上 (1996) が指摘しているように [3]、点字図書は墨字図書に比較すると、巻数が多い、墨字図書の全てが点訳されるとは限らない等の特徴が存在するため、『墨字図書で言うと』どの程度の規模なのかが良くわからないといったこともある。一方で大学図書館では、1980 年代以降のコンピュータを用いた OPAC (オンライン閲覧目録¹) の形成及びその WWW 上での公開により、他大学の蔵書であっても、一定程度ならば簡単に検索 (し、場合によっては取り寄せることも) できるようになってきている。そこで今回は 11 月祭という機会に、これらの Web-OPAC を利用して、京都に数多くある大学における点字図書の大まかな蔵書分布について調査することにした。なおこの調査は大まかな蔵書分布を知る為に行うものであって、目録を作成するといった目的の為にを行うものではない。

2 調査方法

今回の調査の為のデータの作成は、以下のように行った。

調査対象 京都市内に本拠を置く 27 の大学図書館 (短大・専門学校は除外)。その為図書館以外 (資料室など) に存在する点字資料は対象にならない。

調査項目 1 つの点字図書の「タイトル」に対して、その書名、出版者、著者、原書出版者、点字出版年、原書出版年、分類番号、巻数、Webcat 収録をそれぞれ記録する。雑誌は図書とは性質が異なる点がある為今回の調査対象からは除外する。なおこれらの用語は以下で定義する。

用語の定義 「点字図書」とは、各大学 OPAC において『点字図書』『点字資料』『点字書き下し』『点字併記』『所蔵場所:点字』等と表示されており、点字によって記述されていると推測される図書とする。従ってある大学では「点字図書」とみなされていても、他の大学では「点字図書」とはみなせない場合も存在する。

「タイトル」とは、各大学の OPAC 上において、1 つの独立した書誌レコード²として扱われている単位とする。但し同じ図書でも、大学によってズレが生じている場合もある為、日本目録規則 (NCR) の「基礎書誌単位³」に合うように修正する場合もある。

¹ コンピュータ化された閲覧目録であり、書誌的記録は機械可読形式 (MARC レコード) で蓄積され、オンラインによる対話形式で検索を行うもの [4]

² 個々の資料に対する組織的に構成された書誌的事項の集合である記述に、標目を加えたもの [4]

³ 単行レベルの書誌単位で、単行資料の本タイトルから始まる一連の書誌的事項の集合 [4]

「原書」とは、点字図書を製作する際に底本となった(と推定される)墨字図書を指す。なお異なる「版⁴」は区別するが、「刷」の違いは無視し、そのような場合は「 版1刷」とみなす。

「書名」とは、OPAC上に記録されている図書の名称とする。これは原書や他大学の類似書物と相違がみられる場合にもそのままとする。

「出版者」とは、点字版を出版した団体名とする。例えば「ライトハウス中央出版所」は「日本ライトハウス」となる。

「点字出版年」とは、点字版が出版された年とする。なお出版年が複数年にわたる場合は、そのうちの最初の年を点字出版年とする。

「原書出版年」とは、原書が出版された年とする。

「原書出版者」とは、原書を出版した団体名とする。

「分類番号」とは、日本図書館協会の発行する「日本十進分類法(NDC)」に基づく図書の分類番号を指す。なお現在NDCは第9版が最新版となっており本来は全て第9版の値を用いるべきであるが、今回の調査では第6版(1950年刊)より殆ど変更のない第1次分類が分かれば十分であり、また全て第9版で表示しようとする調査が非常に煩雑になる為、第6版以降の値を混在して用いることとする。

「巻数」とは、一つの「タイトル」を構成する点字図書が何冊あるかを示す。例えば1977年に東京点字出版所から刊行された「新明解国語辞典」は「全50巻」となる。なお2つ以上の書誌レコードに対するこの値の合計は以下『冊数』と表記する。

「Webcat収録」とは、国立情報学研究所(NII)が提供する、大学(などの)図書館相互の書誌レコードを共有する”目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)”及びそれを元にした大学間横断検索サービスNACSIS-Webcat(<http://webcat.nii.ac.jp/>), CiNii Books(<http://ci.nii.ac.jp/books/>)に該当タイトルの書誌レコードが記録されていることを指す。記録されていない場合は空欄とする。

「キーワード検索」とは、各Web-OPACにおいて「簡易検索」等として示されている検索方法とする。それによって検索される値は大学によってさまざまだが、例えば京都大学蔵書検索”KULINE”の場合は「書名、著者名、件名同時検索」となる。

- 調査順序
1. まずは各大学のWeb-OPACに接続し、「キーワード検索」の検索値に「点字」と入力して検索を実行する。
 2. 検索の結果出てきたタイトルとその他の上記のデータを一つずつ記録していく。なおこの記録及び以下の計算にはMicrosoft社のMicrosoft Excel2007及びThe G95 Projectが提供するフリーのFortranコンパイラであるg95(<http://g95.org/>)を使用した。
 3. 不明な項目がある場合には、以下の順にして調査、推測を行い、推測値を記入する。
 - (a) 国立国会図書館サーチ(<http://iss.ndl.go.jp/>)で該当タイトルを検索し、点字版が存在するかどうか確認する。
 - (b) WebcatPlus(<http://webcatplus.nii.ac.jp/>)で該当タイトルを検索し、点字版が存在するかどうか確認する。
 - (c) 日本点字図書館Web-OPAC(<https://lib.nittento.or.jp/search1.shtml>)で該当タイトルを検索し、点字版が存在するかどうか確認する。
 - (d) 発行者がホームページを持っていて、そこに発行図書目録があれば、それを確認する。
 - (e) これまでの調査によってなお判明しない事項については、原書を推定して判定する。まず上記3つの検索結果から、「タイトル」が同じとなる墨字図書を探す。

⁴同一出版者が同一原版を用いて発行する刊行物の刷り [4]

- (f) もし「点字出版年」が既知の場合は、最も近い年に刊行された、「著者」が一致する図書を原書とみなし、事項を記入する。
- (g) もし未知の場合は、「著者」が一致する図書を探す。それが一つしかない場合にはそれを原書とみなし、事項を記入する。
- (h) 2つ以上候補となる図書がある、または該当する図書が見つからない時には、「該当なし」として該当部分を空白(欠損値)とする。
- (i) 以下同順に、全てのタイトルについて記入していく。

3 結果

上記の調査により、以下の結果が得られた。

3.1 大学別蔵書数

大学別の蔵書数を表1に示す。

表 1: 大学別蔵書分布

大学 (タイトル数順)	タイトル数	冊数	Webcat 収録数	平均巻数
京都外国語	137	644	1	4.71
同志社	111	363	105	3.27
花園	91	661	1	7.26
龍谷	35	566	3	16.17
平安女学院	33	41	0	1.24
京都女子	19	70	3	3.68
大谷	16	29	0	1.21
京都精華	15	226	3	15.07
立命館	12	167	2	13.92
京都	12	302	12	25.17
佛教	8	177	3	22.13
京都市立芸術	1	1	0	1.00
京都教育	1	1	0	1.00
京都光華女子	1	1	0	1.00
合計	492	3249	133	6.60

単位: タイトル数=タイトル、冊数=冊、Webcat 収録数=タイトル、平均巻数=(冊/タイトル)

なお京都府立、京都府立医科、京都薬科、京都産業、京都嵯峨芸術、京都ノートルダム女子、種智院、京都橘、京都造形芸術、京都工芸繊維、京都市立繊維、同志社女子の各大学はヒットする書誌レコードが存在しなかった。また京都華頂大学は Web-OPAC を公開していなかった。また『平均巻数』の値は小数点以下第3位を四捨五入している。

これらの結果から、以下のようなことが言えるのではないが。

- 少数の大学が、非常に大きな割合のタイトル数の資料を所蔵していること。所蔵タイトル数上位3館(京都外国語、同志社、花園)が全体の68.90%ものタイトルを所蔵している。
- 一方で、上記の3館が所蔵している『冊数』の割合はそれに比べると小さいこと。全体の『総冊数』に対する割合は51.34%だった。

- 所蔵タイトル数が十数前後の図書館(京都精華、立命館、京都、佛教)でも、『平均巻数』で上位に位置するものがあり、これは上述の事項と合致する。
- Webcat に登録されている文献の割合は 26.97%だが、そのうちの 93.23%(124 タイトル) を同志社と京都が占めている。

3.2 出版者別

つづいて出版者別の分布を表 2 で示す。

表 2: 出版者別蔵書分布

出版者(タイトル数順)	タイトル数	冊数	平均巻数
日本聖書協会	117	134	1.15
東京点字出版所	107	1073	10.03
日本ライトハウス	81	1184	14.62
日本点字図書館	53	297	5.60
京都ライトハウス	25	159	6.36
乙訓点訳サークル	18	30	1.67
東京ヘレン・ケラー協会	15	70	4.67
その他	71	297	
不明	5	5	
合計	492	3249	6.60

各事項の単位は前表に同じ

なお「その他」は出版タイトル数 9 タイトル以下の団体であり、42 団体が該当する。なお表には表れていないが、大学図書館による自主製作本は 1 タイトル(重複 3 件)あった。また『京都ライトハウス』には前身の『京都点字社』を含む。

上位 4 団体がタイトル数の 72.76%、冊数の 82.73%を占めている。中でも東京点字出版所と日本ライトハウスは突出して平均巻数の値が高く、この 2 団体だけで総冊数の 69.47%を占めている。

3.3 重複度別

対象全体における、データの重複は表 3 の通りだった。

表 3: 重複度別蔵書分布

重複数	8	7	6	5	4	3	2	1	平均
タイトル数	1	2	0	1	6	30	21	431	1.25

単位:重複数=セット、タイトル数=タイトル

大半(87.60%)の蔵書が京都市内の大学で 1 セットのみ所蔵されている。蔵書を出版している団体が非常に限られている一方で、受け入れているタイトルは多様であることが分かる。

3.4 分類別

NDC 第 9 版の一次分類に基づいて、蔵書を分類すると表 4 となる。また比較の為、京都市中央図書館(以下『中央図書館』)における蔵書分布も示す。

表 4: 分類別蔵書分布

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	不明	合計
タイトル数	15	155	32	66	17	3	2	19	96	47	40	492
同構成比	3.05	31.50	6.50	13.41	3.46	0.61	0.41	3.86	19.51	9.55	8.13	
冊数	42	252	183	252	42	7	2	34	2115	176	150	3249
同構成比	1.29	7.76	5.63	7.76	1.29	0.22	0.06	1.05	65.10	5.23	4.62	
中央図書館	13356	13387	31038	47183	17422	17951	7784	24575	4919	59995	0	237610
同構成比	5.62	5.63	13.06	13.09	19.86	7.33	7.55	3.28	10.34	2.07	25.25	

単位:タイトル数=タイトル、冊数=冊、中央図書館=冊、構成比=%

分類について:上の表においては各数字がそれぞれの一次分類の値を表し、0=総記、1=哲学、2=歴史、3=社会科学、4=自然科学、5=技術、6=産業、7=芸術、8=言語、9=文学である。

京都市中央図書館の蔵書構成は京都市図書館ホームページ [5] による。

タイトル数においては、1類(哲学)の割合が中央図書館に比べると大きくなっており、全体の約1/3を占める。その為多くの分野は軒並み構成比の値を下げているが、特に9類(文学)は割合を大きく下げている。一方で8類は中央図書館に比較すると大きくなっている。

冊数においては、1類の割合はタイトル数に比較すると非常に小さくなっている。これは1類の蔵書155タイトルの内、122タイトルが1タイトル1~2巻の聖書(NDC9: 193)であることに起因していると思われる。一方で8類の割合は非常に大きく、タイトル数では19.51%にも関わらず冊数では65.10%と、全体の2/3弱を占めている。これは『新コンサイス和英辞典(全100巻)』や『新明解国語辞典(全50巻)』など、巻数が大きくなる辞書類が8類に含まれる(前述の2つはそれぞれNDC9: 833, NDC9: 813.1)事に起因すると思われる。

なお『点字(NDC9: 378.18)』が含まれる3類のタイトル構成比は中央図書館とほぼ同じ値であり、点字蔵書であっても、必ずしも『点字』に係る図書を多く所蔵しているわけではない。

3.5 出版年別

点字と原本それぞれにおける出版年の分布は表5の通り。

点字出版年のタイトル数分布をみると、主に1950年代と1980年代に偏っていることが分かる(この2つの年代で全体の50%以上)

さらに冊数分布をみると、50年代が構成比の値を大きく下げているのに対し、80年代は全体の4割を超えており、50年代は分量が薄い点字本が多く受け入れられ、一方80年代は分量が厚い点字本が多く受け入れられたものと推測される。なお50年代の点字本の『平均巻数』は2.03(冊/タイトル)であるのに対し、80年代のそれは9.38である。

一方で2000年以降に出版された点字図書はタイトル数、冊数共に少なくなっており、21世紀に入ると受け入れられる点字図書が減少していると推測される。

また原本出版年と点字出版年と比較すると、80年代が約10%値を下げていることを除けば(不明タイトルの差を考えると)、平均値、分散などはほぼ同じ分布傾向を示しており、その年代の原本が選ばれて点訳されていることが推測される。

戦前の非常に古い蔵書もごくわずかであるが含まれており、点字出版年が最も古いものは花園大学所蔵の『仏教の精髓(1928年、出版:京都ライトハウス、原本:仏教教会(1927年))』である。なお墨字出版年が最も古いものは同志社大学所蔵の『靈魂上の病人(点字出版年・出版者不明、原本:救世軍日本本営(1905年))』である。

表 5: 出版年別蔵書分布

	～1939	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	2000～	不明
点字タイ	10	9	108	39	46	153	58	18	52
同構成比	2.03	1.83	21.95	7.93	9.35	31.10	11.79	3.46	10.57
点字冊数	36	30	219	316	572	1435	269	55	324
同構成比	1.11	0.92	6.74	9.73	17.61	44.17	8.28	1.48	9.97
原本タイ	10	10	119	24	45	112	31	11	131
同構成比	2.03	2.03	24.19	4.88	9.15	22.76	6.30	2.03	26.63

	標本平均	標本分散	中央値
点字タイ	1974.74	293.69	1983
点字冊数	1978.29	942.91	1983
原本タイ	1970.51	301.60	1974

単位:点字タイ、原本タイ=タイトル、点字冊数=冊、構成比=%

表のスペースの都合上、点字出版年・タイトル数別=点字タイ、点字出版年・冊数別=点字冊数、原本出版年・タイトル別=原本タイと略記している。

4 考察・その他

4.1 平均巻数について

先ほど 3.1 の中で、タイトル所蔵数はそれほど多くない(10～40)にも関わらず、平均巻数が非常に大きい(10を超える)図書館がいくつかあった。また 3.4 において、8 類(言語)の平均巻数は 22.03 と全体平均(6.60)よりかなり高い値を示していた。そこでこれらの図書館では 8 類に属する辞書類を中心に所蔵しているのではないかと推察が考えられる。そこで平均巻数が 10 を超える各図書館(龍谷、京都精華、立命館、京都、佛教)、その合計及びその他の大学についてその蔵書に占める 8 類の割合は表 6 のようになった。

表 6: 平均巻数の値が高い 5 大学における NDC8 類の割合

大学名	龍谷	京都精華	立命館	京都	佛教	5 大学合計	他大学
タイトル	7	5	6	7	3	28	68
同構成比	20.00	33.33	50.00	58.33	37.50	34.15	16.58
冊数	472	193	140	269	143	1217	898
同構成比	83.39	85.40	83.83	89.07	80.79	84.63	49.59

単位:タイトル数=タイトル、冊数=冊、構成比=%

この結果をみると、確かにこの 5 大学では他の 9 大学よりも高い比率で 8 類図書を所蔵しており、また冊数で見るといずれも大学の総冊数の 8 割を超える高率で所蔵されていることが分かる。従って『平均巻数が高い図書館は 8 類を多く所蔵している』と言えるのではないだろうか。

4.2 点字出版年と原本出版年について

3.5 において、点字出版年の推移と原本出版年の推移はほぼ一致していると述べたが、それでは原書が出版されてから点字図書が出版されるまでの期間には変化がないのだろうか。一つには、ブレイラーやパソコン点訳の普及によって、原本の出版から点字版製作までの期間が短くなっていくのではないかと考えがえる。また一方では、点訳がかつてに比べれば容易になったことにより、今までは時間的余裕が

なかったため不可能だった、出版されてからかなりの期間がたった墨字本を点訳することができるようになった為、製作までの年数は全体を通してみれば長くなるという考えもできる。そこで、年代とともに製作期間がどうなっているのだろうかといったことを知る為に、原書出版年、点字出版年が両方とも判明している 337 件のレコードについて、点字出版年と原本出版年の差と、点字出版年の相関を調べた。結果、その相関係数は 0.028 であった。これは極めて小さい値であり、点字出版年と原本出版年の差と、点字出版年の間に相関は殆どないと言える。つまり、点字出版される本の原本が出版されてからの期間の長さは殆ど点字出版年には関係がないということである。

4.3 出版者と大学の関係について

3.2 において、点字図書の出版者は上位 4 団体でタイトル数の 7 割を占めると述べたが、その中でも大学によって出版者に偏りがあつたりするのだろうか。それを調べるため、所蔵タイトル数が特に多い京都外国語、同志社、花園の各大学について、出版数上位 4 団体の蔵書のタイトル数がどの程度あるのかを表 7 に示した。

表 7: 所蔵タイトル数上位 3 館における出版者分布

大学名	日本聖書協会	東京点字出版所	日本ライトハウス	日本点字図書館
京都外国語	0	72	64	0
構成比	0.00	52.55	46.71	0.00
同志社	85	8	2	1
構成比	76.58	7.21	1.80	0.90
花園	0	8	4	50
構成比	0.00	8.79	4.40	54.95

単位:各大学のタイトル数=タイトル、構成比=%

上述 3 つの大学はいずれも、特定の 1~2 団体からの蔵書が全蔵書の過半数を占めていることが分かる。特に京都外国語大学は東京点字出版所と日本ライトハウスからの蔵書が図書館の点字図書のほぼ全てを占める状態となっており、ブランク・オーダー方式⁵を利用しているのではないかとも思える。

4.4 捕捉率について

今回の調査は、各大学の「キーワード検索」に「点字」を入れて、ヒットした書誌レコードを記録するという非常に簡易的な方法で行った。ただこの様な方法でも、所蔵されている点字図書をかなりの程度捕捉出来ているとは考えられる。なぜなら、こうした書誌情報を記録する際に、日本では主流の規則となっている『日本目録規則 (NCR)』には

資料種別の表示は、本タイトルの直後に記録する。総合タイトルが無い場合には、最初の著作の本タイトルの後に記録する。

愛と反逆 [点字資料] : 近代女性史を創った女たち / 岩崎邦枝著

(日本目録規則 1987 年版改訂 3 版 11.1.2.2[6], 注: はスペースを表す)

とあり、この規則に従っている書誌レコードにはタイトル部分に「[点字資料]」という記述があるはずであり、従って「キーワード検索」を行えば書名に「点字図書」が含まれる図書は条件にヒットするはずだからである。では具体的に、この方法でどの程度の所蔵している点字図書を捕捉出来ているのかを知る方

⁵特定の主題や分野、出版者などをあらかじめ指定し、それに該当するものを書店が選んで納品させること [4]

法はないのだろうか？ もちろん最も確実に確認する方法は（参考調査係などを通じて）各大学図書館に直接照会することであるが、ここでは容易に確認できる例として下記の2つの大学を挙げる。

1. 京都大学の場合。京都大学の Web-OPAC である 'KULINE' は『資料形態』のみを検索キーとして蔵書検索が行える。その中には点字図書も含まれるため、『資料形態:点字』だけをキーとして検索すれば即座に全ての点字図書（と図書館が認識しているもの）を検索結果として得ることができる。そしてそうしたところ、12 件（雑誌に分類されるものも含めれば 16 件）がヒットした。これは今回の調査でヒットした点字図書の数と一致しており、捕捉率は 100%であることが確認された。
2. 大谷大学の場合。大谷大学では『大谷大学図書館所蔵点字図書目録』という目録を 1991 年に発行している。20 年前の目録である為、これ以降に受け入れられた図書などには対応できない等の問題はあるが、基本的に（複本等を除いて）図書を廃棄することのない大学図書館においては、これ以前に受け入れられた図書に関しては全て捕捉していると考えられる。従ってこの目録にある書誌レコードと、今回の調査でヒットした 1991 年以前に発行された点字図書の書誌レコードを比較することによって、擬似的にであるが捕捉率を調べられると思われる。そこで『大谷大学図書館所蔵点字図書目録』を確認したところ、1991 年時点で 48 タイトルの所蔵があったようである。一方今回の調査でヒットした、1991 年以前に発行された（点字発行年不明も含む）書誌レコードは 7 タイトルである。従って捕捉率は 14.58%であり、点字図書の蔵書の殆どを把握できていないことになる。この理由としては、例えばそもそも Web-OPAC に書誌情報が登録されておらず現地のカード目録でしか所蔵が確認できない（一部の図書館では古い蔵書は未だにのカード目録の MARC⁶化が完了していないため）、書誌レコードの取り方上の問題で、職員が点字図書の書誌記録法を熟知していない為に『点字図書』の表記が漏れてしまった、そもそも NCR を採用していない為タイトルに「[点字図書]」の表記がされない、等の原因が考えられる。またそもそも NCR に前述の規則が追加されたのは 1977 年修正版（1983 年刊行）からであり、それ以前の版においては点字資料の扱いについては述べられていない。その為、1983 年以前に記録され、その後 MARC 化された書誌レコードに関してはこの表記が抜け落ちている為に、「キーワード：点字」で検索してもヒットしないといったことも推測される。

5 まとめ

今回の調査によって明らかになったことを以下に箇条書きで挙げる。

1. 京都市の大学においては、少数の大学が（他と比べると）飛びぬけて多い数の図書を所蔵しているが、冊数で見ると、辞書などをそろえている、所蔵タイトル数の少ない大学も多くの冊数の点字図書を所蔵している。NACSIS-ILL への登録率は約 25%だが、そのほとんどを京都と同志社が占める。
2. 点字図書の出版者は 4 つの団体で総数の約 7 割を占めている一方で、重複が生じているタイトルは 2 割に過ぎない。また出版数が多い 4 つの団体の中でも、大学ごとに受け入れ団体に非常に偏りがある。
3. NDC 分類を用いて蔵書分布を調べると、1 類と 8 類でタイトルの半数以上をしめ、さらに冊数では 8 類が 3 分の 2 を占める。
4. 年代の分布については、50 年代と 80 年代に多くの点字図書が発行されているが、50 年代の点字図書は巻数が小さいものが多く、80 年代の点字図書は巻数が大きいものが多い。原本の出版の分布もほぼ点字図書の分布に従っており、原本が出版されてから点字図書が出版されるまでのラグと、点字図書の発行年代も特に相関は見られなかった。
5. 今回の調査でヒットした蔵書の捕捉率は大学によって大きく異なると思われるが、概ね 1983 年以降の版の日本目録規則に準拠してレコードが記録されている大学では捕捉率は高くなり、そうでない大学では低くなると予想される。

⁶書誌記述、標目、所在記号などを、(中略) コンピュータで処理できるような媒体に記録するもの、または記録したもの [4]

今後へ向けた意見としては、一つには同志社・京都以外の NACSIS-ILL へのレコード登録が挙げられる。確かに NACSIS-ILL は書誌レコードの登録は大学ごとの裁量に任されている為、大学側からすれば利用が墨字図書に比べれば少なく、また多くは禁帯出指定されているため館外からの利用が想定されていないと思われる点字図書を登録するメリットはあまり大きくないが、他大学生が訪問して使用する可能性もあり、図書館に埋もれている情報を発見する可能性を少しでも高めるためには、NACSIS-ILL にレコードを登録すべきなのではないのだろうか。またもう一つには、巻号情報の整理という点があげられる。今回の調査の過程では、複数巻に及ぶ点字図書のレコードが、1 巻ずつ別々になっている例が多数みられた。これらは本来「物理単位⁷」の情報であり、元々の墨字図書が同一である以上、本来まとめて同一の書誌レコードとして扱うべきである。特に巻数が膨大になることがある点字図書でこうした処置を行った場合、大量に出力される点字図書の書誌レコードは検索上の使い勝手を下げてしまう可能性が高くなるため、こうした状況は避けなければならないだろう。

参考文献

- [1] 福岡市, 特集 京都、東京に次いで”学生”が多い, <http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/7274/1/7d74aa172f8.pdf>, 2011 年 11 月 20 日閲覧
- [2] 京都大学, データでみる京都大学 蔵書数など, 2003 年 5 月 31 日現在, http://www.kyoto-u.ac.jp/contentarea/ku_data/zousho.htm, 2011 年 11 月 17 日閲覧
- [3] 村上佳久, 視覚部図書館システム, 筑波技術短期大学テクノレポート, vol3. no3. p151-155, 1996
- [4] 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編, 図書館情報学用語辞典, 第 2 版, 2002
- [5] 京都市, 京都市図書館ホームページ, 2011 年 4 月 1 日現在, <http://www.kyotocitylib.jp/gaiyo/siryou01.html#1>, 2011 年 11 月 16 日閲覧
- [6] 日本図書館協会目録委員会編, 日本目録規則, 1987 年版改訂 3 版, 2006
- [7] 大谷大学図書館, 大谷大学所蔵点字図書目録, 1991

⁷書誌単位を分割して形態的に独立した部分 1 点ずつについて記述する単位 [4]